

一つの国際合意ができ、その目的に向

かって世界が熱心に取り組む。それは理

想だが、現実には奇蹟だ。それも

多大の費用と労力を伴うとなれば尚更

だ。だが、その奇蹟が起きた。この四月

ウィーンで開かれた標記会合がそれだ。

安全条約について、何故か日本の関心

は薄いが、今や、原子力安全界の最大イ

ベントだ。三年ごとに各国が提出する報

告書を基に、徹底的なピア・レビューを

相互に実施する会合だ。一週間に渡る長

丁場の、消耗度の高い会合だが、得ると

ころもまた大きい。

安全条約が話題に上がったのがチュル

ノブイリ事故の五年後、IAEAが開催

した原子力安全に関する国際会議の席上

だった。いやしくも原子力発電を行う国

家は、安全を担保す

る国際的義務を最低

限有すると。この考

えが具体化し条約と

して発効したのが九

六年。条文に従って

第一回検討会議が行

われたのが三年前の

ことだ。周知のように条約の裏には、安全レベ

ルの低い旧ソ連型発電所の運転停止を求

める、西欧諸国の強い思惑があった。だ

がこの思惑は脆くも第一回会合で崩れ

た。その主役はロシアではなく、原子力

が唯一の発電源である、旧ソ連から独立

したばかりの新興国だった。「原発の存

廃は国家国民の生死を支配する。安全向

上の時間をくれ」との主張だ。この主張

実質的に果たされ、法の整備や許認可手

のラコステ原子力安全・放射線防衛総局

長は、大統領選挙後

の一日を除いて全日

の反省改善に向かうのは当然の流れだろ

う。具体的には高経年劣化対策、定期安

全レビュー、規制のピア・レビュー等が

次回会合の目玉である。最後の課題は日

本の最も不得意とするところだ。三年後

の冷や汗が日本に何をもたらすか期待し

たい。

僕は幸運にも、両度の検討会合をとも

に出席させて貰った。そして目の当たり

に、一片の条約に対する人々の情熱を見、

情熱が安全を大きく前進させたのを見

た。この一事だけでも、原子力界に籍を

第2回安全条約検討会合



石川 迪夫

いしかわ・みちお
一原子力発電技術機
構技術顧問。56年東
大機械工学を卒業
大し、日本原子力研究
所東海研究所副所長
などを経て91年、原子
力工学部教授。原子
力発電と安全工学が
専門。兵庫県出身、
68歳。

神経をすり減らすレビューとならざるを得ないのだ。

奇蹟とまで書いた安全条約の成功は、

この答弁に立った各国規制首脳がかいた

冷や汗の量が作り上げたものなのだ。ど

の国も安全に完全はない。規制はさらに

磨きをかけるべきだ。フランスのラコ

ステ総局長の発言が、今回会合の精であ

り次回成功をも約束している。

ところで、現存する発電所の安全性が

向上し、各国の規制体制が整った。とな

れば次に来る課題が運転管理や規制現状

の反省改善に向かうのは当然の流れだろ

う。具体的には高経年劣化対策、定期安

全レビュー、規制のピア・レビュー等が

次回会合の目玉である。最後の課題は日

本の最も不得意とするところだ。三年後

の冷や汗が日本に何をもたらすか期待し

たい。

僕は幸運にも、両度の検討会合をとも

に出席させて貰った。そして目の当たり

に、一片の条約に対する人々の情熱を見、

情熱が安全を大きく前進させたのを見

た。この一事だけでも、原子力界に籍を

置いた身の誇りを感じている。